

文学研究科

文学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的 ▶

各専攻のディプロマ・ポリシー ▶

- ☒ 哲学専攻
- ☒ 史学専攻
- ☒ 国文学専攻
- ☒ 英米文学専攻
- ☒ ドイツ文学専攻
- ☒ フランス文学専攻
- ☒ 新聞学専攻
- ☒ 文化交渉学専攻

各専攻のカリキュラム・ポリシー ▶

- ☒ 哲学専攻
- ☒ 史学専攻
- ☒ 国文学専攻
- ☒ 英米文学専攻
- ☒ ドイツ文学専攻
- ☒ フランス文学専攻
- ☒ 新聞学専攻
- ☒ 文化交渉学専攻

哲学専攻 ▶

- ☒ 哲学専攻 博士前期課程
- ☒ 哲学専攻 博士後期課程

史学専攻 ▶

- ☒ 史学専攻 博士前期課程
- ☒ 史学専攻 博士後期課程

国文学専攻 ▶

- ☒ 国文学専攻 博士前期課程
- ☒ 国文学専攻 博士後期課程

英米文学専攻 ▶

- ☒ 英米文学専攻 博士前期課程
- ☒ 英米文学専攻 博士後期課程

ドイツ文学専攻 ▶

- ☒ ドイツ文学専攻 博士前期課程
- ☒ ドイツ文学専攻 博士後期課程

フランス文学専攻 ▶

- ☒ フランス文学専攻 博士前期課程
- ☒ フランス文学専攻 博士後期課程

新聞学専攻 ▶

- ☒ 新聞学専攻 博士前期課程
- ☒ 新聞学専攻 博士後期課程

文化交渉学専攻 ▶

- ☒ 文化交渉学専攻 博士前期課程
- ☒ 文化交渉学専攻 博士後期課程

文学研究科の教育研究上の目的及び人材養成の目的

幅広い教養と柔軟な思考力を持ち、世界と未来に開かれた新しい知を創造する力を伸ばすために、文化の総体の探究、現代社会との連結、語学能力の重視に重点を置いた実践教育を行い、社会、文化の発展に貢献しうる人材を養成する。

前期課程では、研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識によって職業的能力を向上させる。後期課程では、国際的な水準で広く活躍し、将来、各々の分野で研究・教育に携わる人材の育成を期する。

各専攻のディプロマ・ポリシー

各専攻のディプロマ・ポリシー

- 哲学専攻
- 史学専攻
- 国文学専攻
- 英米文学専攻
- ドイツ文学専攻
- フランス文学専攻
- 新聞学専攻
- 文化交渉学専攻

哲学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけているべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 西洋哲学史全般に関する基礎知識をもとに、各自の研究テーマを掘り下げて、じっくり考える力と、時流に流されない深い学識
2. 現代社会のグローバルな危機に対して、対症療法に終わらない深い次元から解決の方向を見出す洞察力と賢慮
3. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
4. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
5. 専門分野の研究実践能力を獲得し、修士論文をまとめる力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 論文の個人指導や国内外の研究者との交流を通して得た知識により、学会での発表ができる能力と、それらを踏まえ博士論文としてその成果をまとめる能力
2. 複数の外国語（英・独・仏・ギリシア・ラテン）を読む力と難解な古典文献の読解力
3. 書き言葉と話し言葉の両面にわたる適切な表現の能力および文化的に異なる背景をもった人々を説得できる力
4. 専門研究者として、大学等の高等教育機関において教育・指導にあたる能力

史学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、歴史研究の知識向上に寄与できる力
2. 先行研究を十分に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づいた実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けたうえで、博士論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 明確な問題意識に基づいてテーマ設定ができ、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示ができる力
2. 先行研究を網羅的に検討・吟味し、出典の記載や引用を適切に行うことができる力
3. 史・資料に基づく実証研究を行うことができる力
4. 論文作成において、的確な論文構成や整合性のある論理構成をとることができる力
5. 適切な言語表現ができ、論文全体を整った体裁にまとめることができる力
6. 独創的かつ先端的な研究を行い、自立的研究者として研究を遂行できる力

国文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
2. 国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育者としての能力を養成することができる能力
3. 高度な知識と緻密な分析に依拠し、的確に構成された修士論文を書く能力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づいた、教育ができる能力
2. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力と教育実践能力を有し、広く社会、世界に貢献することができる能力
3. 博士前期課程に修得した能力をさらに伸張し、国語学・古典文学・近代文学・漢文学を総合した「国文学」に対する高度な知識と研究能力また教育実践能力に基づき、国文学の伝統を継承し、発展させる意欲を持ち、自立した研究活動を展開する、研究者として自立できる能力
4. 自立した研究者として、学会での口頭発表・学術論文の執筆を踏まえ、博士論文としてその成果をまとめる能力

英米文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。キリスト教的ヒューマニズムに基づき、英米文学を西欧文明という大きな全体の一環をなす試みとして理解し研究した学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め学位を授与します。

1. 人文学的な教養を基礎とし、英米文学、英語学・英語教育を歴史、宗教、思想、文化の諸領域との広範なつながりを射程に入れて理解することができる力
2. 研究や教育を遂行するための高度な英語能力と基礎からの研究能力
3. 英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての体系的かつ専門的な知識
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. 専門研究者として大学等の高等教育研究機関において教育や研究に当たるにふさわしい能力（Aコース）
6. 英米文学や英語学の高度な知見をもって英語教育を行なう中高教員、その他の職業に従事するための能力（Bコース）

【博士後期課程】

本課程では、英米文学・英語学・文化研究の専門研究者として学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 人文学としての文学研究という視点から、専門的知識と共に広い分野における知識
2. 指導教授（メンター）による研究指導を受け、英米の文学・思想・文化、英語学・英語教育についての専門研究にたずさわることができる力
3. 独自の研究テーマを探求する技能
4. 大学、その他の研究機関における教育研究職に従事するための英語力と技能
5. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力

ドイツ文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する専門的な知見と研究に必要な能力を修得の上、研究成果として学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究を行うのに十分なドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏のさまざまな地域や時代の文化現象に対する知識と理解を深め、それを多様な視点から考察し、研究するに値するテーマを自分で設定することができる力
3. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
4. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と深い知見に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視座を獲得し、他国との相互理解、文化交流に貢献できる力
5. 自国とは異なる文化や思想をその歴史的背景とともに理解することによって、世界の多様さと豊かさを認識し、他者に対する想像力と開かれた精神をもって、現代世界のさまざまな問題と向き合うことができる力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。ドイツ語圏文学・文化に関する高度の研究能力を修得し、その分野における研究者として活躍できるようになることを目指して学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 専門的な研究に必要な高度のドイツ語運用能力を修得し、原典や参考文献などのテキストを的確に理解し、ドイツ語で論理的な文章を書き、学問的な議論を行うことができる力
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的な文脈のなかで理解し、専門領域への洞察を深めると同時に、広い視野と複眼的な視点によって研究対象、研究方法を見定めることができる力
3. 自分の研究が、研究史においてどのように位置づけられるかを把握し、新たな知見をもたらすテーマを自分で設定することができる力
4. 適切な構成、緻密な分析、明快な論理展開、豊かな言語表現を備えた説得力のある学術論文を書くことができる力
5. ドイツ語圏の文化や社会に対する強い関心と専門的な知識に基づき、自国の文化や社会を世界との関連において俯瞰する視野を獲得し、諸外国との文化交流に貢献できる力

フランス文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。複眼的視点と問題意識をもって専門的な知識と深い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する高水準の専門的研究をすることができる能力
2. 専門的な研究を遂行しうる高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術に関する深い教養
4. 専門的な知識に基づいた的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学位論文を書くことができる能力
5. さまざまな分野で職業人として活躍しうる能力・適性

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。各人の専門において先端的な知識と高度な幅広い教養を獲得した上で、研究の成果として優れた学位論文を提出し、その審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、国際的な水準で通用しうる高度な専門的研究をすることができる能力
2. 国際的な学術的交流を可能にする高度なフランス語運用能力
3. フランスおよびフランス語圏の文化・芸術についての極めて深い見識
4. 専門的な知識、先行研究の精査に基づく的確な分析と論理的かつ説得的な構成・展開を備えた学位論文を書くことができる能力
5. 専門的な知識やフランス語運用能力を教育の現場に生かすことのできる能力・適性

新聞学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。幅広くマス・コミュニケーションとジャーナリズムを学習して所定の単位を修得し、学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. カリキュラム・ポリシーが示す3分野の基礎知識を修得し、及びそれらを現前するメディアやジャーナリズムに関する諸問題の解決に応用できるだけの力
2. 幅広い関心領域を有し、情報化社会において今後新たに次々と生起する諸問題にその都度関心を払い、それらに対して独自の洗練された問題意識を持って臨むことができる力
3. 問題意識と方法論をもって、修士論文を完成させ、一定程度以上の評価を得ることができる力
4. 学外の情報にも広くアンテナを張って、情報収集を行い、自己の研究に有益な情報を修得すべく自ら努力できる力
5. 一定の様式を備えたレポートや口頭発表によって、自己の研究成果や思想を効果的に伝達する力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。所定の単位取得および学位論文を提出しその審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 研究領域における学問的方法論および高度な専門知識を有し、ジャーナリズム論、メディア論、情報社会論などを中心に自己のテーマ領域を確立する力
2. 自己のテーマ領域に関して、過去の諸研究を広くレビューしており、他者に対して適宜要点を伝える能力を有する力
3. 国際的な視野に立った討論や分析を行う能力を持ち、国内外の学会等で最先端の研究成果を発表できる力
4. 独自の研究テーマを持ち、今後、研究者として自立して研究を遂行していくための計画を立てる力
5. 自己の研究テーマの研鑽を通じて培った高度な専門知識や倫理感を以て、国際社会に広く貢献できる力

文化交渉学専攻

【博士前期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 修士論文の作成にあたって、先行研究を十分にふまえ、既存の学問領域の枠にとらわれずに、適切なテーマを設定する力
2. テーマ設定に基づき、その解決のために必要な資料を読解し分析する能力
3. 緻密な分析、論旨の整備等がそなわった明快な論文を作成する力

【博士後期課程】

本課程では、学生が修了時に身につけるべき能力や知識を次のように定めています。修了要件を満たし論文審査に合格すれば、これらを身につけたものと認め、学位を授与します。

1. 博士論文において、先行研究を十分にふまえ、緻密な分析にもとづき、独自に新しい学説を打ち出す力
2. 博士論文の核になる論文を、学会における発表や、雑誌論文への投稿によって、積極的に世に問う力
3. 修了後も、研究者としての自覚をもって、必要に応じて海外で活動するなど、研究を深化させる力

各専攻のカリキュラム・ポリシー

各専攻のカリキュラム・ポリシー

- 哲学専攻
- 史学専攻
- 国文学専攻
- 英米文学専攻
- ドイツ文学専攻
- フランス文学専攻
- 新聞学専攻
- 文化交渉学専攻

哲学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、哲学専修コースおよび現代思想コースの2つのコースを設置し、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 哲学専修コースでは、古代から中世を経て近・現代へ至る西洋哲学の歴史をふまえて、科学、芸術、文化、宗教のあり方を根本から考えるとともに、哲学の文献研究の基礎を学ばせる。
2. 古代から近代まで哲学の古典的著作を原典（英・独・仏・ラテン・ギリシア）で精読する文献研究を開設する。
3. 現代思想コースでは、現代的な視座から哲学の根本問題を考察し、環境、生命、医療など現代社会が直面する多様な倫理的問題をとりあげる。文献研究以外に現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などの科目を開設する。
4. 両コースに共通の必修科目「哲学総合演習 A、B」によって、各自が自分の研究を発表し、討論する機会を設ける。関心の枠を拡げ、質疑応答や意見交換によって哲学的思索を深め、共同研究のやり方を幅広く学ぶ。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。
5. 入学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、最終的には修士論文へと結実させる。
6. 後期課程進学を希望する者は、大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表や『哲学論集』への投稿、などを通じて、学会発表を経験させる。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門的哲学研究者（大学・短大・高専の教員）の養成を主眼とし、また国際的な舞台上で活躍できる人材を育成するようカリキュラムを編成しています。

1. 哲学の歴史研究においては文献講読を中心とし、古代から現代までを扱う「哲学特殊研究」を複数開設する。
2. 文献研究以外に、現代倫理学、美学・芸術学、東洋思想、日本思想、宗教思想などを開設する。
3. 各自が自分の研究を発表し討論する必修科目「哲学特殊研究 A、B」を開設する。
4. 後期課程進学後に各自の希望によって指導教員を決定し、個別の研究指導を通じて自分の勉学を深め、口頭発表や論文投稿など学会活動を通じて研究成果を発表しつつ、最終的には博士論文へと結実させる。
5. 大学院生の編集する『上智哲学誌』への投稿、上智哲学会での研究発表、『哲学論集』への投稿などを通じて、学会発表を経験させる。
6. 本学の恵まれた条件を活かして海外留学を推奨する。また授業の一部を英語で行うなど、国際的な研究水準を意識させる。

史学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、歴史学の幅広くかつ深い知識を極め、鋭い分析・批判能力を培うよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 地域的（日本史・東洋史・西洋史）、時代的（古代史・中世史・近世史・近現代史）に細分化された領域に配置された教員が、テーマに最も近い学生を「研究指導」する。
2. 学生が、上記の特定領域の史料読解力を磨き、研究史を学ぶ「演習」を開設する。
3. 地域・時代を超えた学生が集まり、歴史学の比較研究や幅広い論を行い、自分の専門領域をより客観的に見る姿勢を養う「特研」を開設する。
4. 学生が、修士論文完成まで数度経過報告を行い、論文のまとめ方を修得する「修士論文演習」を開設する。
5. 学生の専門領域を深めるために、指導教員の承認を得たうえで、他専攻の科目や、他研究科の科目、ならびに協定を結んだ他大学大学院の科目を、一定の条件の下で履修させることがある。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 自分のテーマに最も近い教員を指導教員として学生が選ぶ「研究指導」を開設する。
2. 自分のテーマでの史料講読や研究史を教員の指導下で学びつつ、論文執筆の途中経過を報告して論文作成を進める「博士論文演習」を開設する。
3. 本専攻課程の授業以外に、学生は、指導教員の承認を得たうえで、海外留学や学会・研究会報告を行い、研究者としての研鑽を積む。

国文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊講義・演習の科目、及び世界から見た日本文学の科目を学生が履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊講義・演習の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊講義・演習の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊講義・演習の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊講義・演習の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた修士論文を執筆するために、研究指導をする。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、古典学を研究・教育の根幹に置いた「国文学」を総合的に追究するために、本課程において開設する特殊研究の科目、及び世界から見た日本文学の科目を履修するよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 古典学を研究・教育の根幹に置いた国語学を追究するために、国語学特殊研究の科目を開設する。
2. 古典学を研究・教育の根幹に置いた古典文学を追究するために、古典文学特殊研究の科目を開設する。
3. 古典学を研究・教育の根幹に置いた近代文学を追究するために、近代文学特殊研究の科目を開設する。
4. 古典学を研究・教育の根幹に置いた漢文学を追究するために、漢文学特殊研究の科目を開設する。
5. 「国文学」の総合的な知見に基づいた学位論文を執筆するために、研究指導をする。

英米文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、高度な英語能力と英米文学・思想・文化、英語学・英語教育についての知識が獲得できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 特別講義・演習をバランス良く受講し、体系的かつ専門的な知識を身につけるように指導する。1年次はアドバイザーによる研究指導を受け、2年次は専門分野の指導教員（メンター）のもとで研究を進める。
2. 修士1年で「文学研究法Ⅰ」（日本語）と「文学研究法Ⅱ」（英語）を必修として開設し、リサーチ、研究発表、論文執筆を英語と日本語で行えるようになることを目指して基礎力を養う。
3. 大学教員、中高教員、あるいは英語英文学における知識や技能を生かした進路に進むための訓練をする。
4. Aコース（後期課程進学コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語）を作成し、後期課程に進み専門研究者となることを目指す。
5. Bコース（前期課程完結コース）の学生は、2年次にメンターによる研究指導を受けながら修士論文（英語・日本語）あるいはリサーチ・ペーパーを作成し、研究の基礎を学ぶ。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、専門研究者となるための研究方法を修得し、専門テーマに関する研究を行うことができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. リーディング・コースを毎年履修し、専門的知識を獲得すると共に、幅広い視野を身につけるように指導する。
2. リサーチを進め、学内外で研究発表を行い、研究論文を公表するように指導する。
3. 博士予備論文作成を指導する。
4. 英語運用能力の向上を図り、英語圏の大学や研究機関に長期あるいは短期留学できるように指導する。
5. 博士論文のテーマを定め、博士予備論文を執筆し、博士号取得に向けた研究を進めるように指導する。

ドイツ文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、自分で研究テーマを見つけ、その成果を学術論文にまとめることができるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要なドイツ語運用能力を身につけることを目指し、ドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏の文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、その多様性と豊かさに触れるために、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して、問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、修士論文中間発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、他者の見解を理解し、そこから新たな視点を獲得する能力を養成する。
5. 教員の個別指導の下、研究テーマを決定し、日本語（要ドイツ語レジュメ）ないしはドイツ語で修士論文を書くことを課す。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、ドイツ語圏の文学・文化についての専門的な理解と考察を深め、専門領域において新たな知見をもたらす博士論文を提出できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. すべての授業において、専門的な研究を行うのに必要な高度なドイツ語運用能力を向上させることを目指しドイツ語で行う授業を複数用意する。
2. ドイツ語圏文学・文化をヨーロッパの歴史的文脈のなかで理解し、多角的な視点と問題意識をもてるよう、さまざまな時代や地域に関する授業を開設する。
3. 各授業や文学研究の方法論に関する授業を通して問題意識を深め、自分でテーマを設定できる力を養う。またレポート作成を通して、分析能力、論理的思考力、言語表現力を身につけさせる。
4. 授業での討論、論文発表会などを通して、自分の見解を論理的に説得力をもって伝える力を培うと同時に、学問的な議論を行う能力を養成する。
5. 指導教員の個別指導の下、まずは院生の雑誌に学術論文を執筆し、論文の書き方を具体的に徹底して身につけ、それをさらに発展させて、博士論文を執筆する。

フランス文学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、方法論を深化させ、多様な興味・関心を抱くことのできるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、研究方法の修得・深化に役立つ専門的教育を行う。
2. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関して、多様な興味・関心を喚起しうる専門的教育を行う。
3. 高度なフランス語運用能力を養成するための実践的な語学的訓練を行う。
4. 修士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導をする。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、フランスおよびフランス語圏の文学・芸術の研究に関して、国際的なレベルでのテーマと方法論の基準と選択について意識を高めるよう、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. フランスおよびフランス語圏の文学・芸術に関する「特殊研究」を複数開設する。
2. 博士論文作成のために、テーマの掘り下げ、プランの策定、論述の整備など、きめ細かい指導を行う。
3. 給費留学や研究集会での発表など、研究者としての国際的な活動に道を開くための手助けをする。

新聞学専攻

【博士前期課程】

本課程では、効率的な学習によって、ディプロマ・ポリシーに示す目標を達成できるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム論、メディア分析の3分野を基本に据えたカリキュラムを構成し、その上で演習を配置し院生が主体的に学問に取り組める体制とする。
2. メディア・ジャーナリズムをとりまく今日の諸問題を扱う科目をその都度設置して、院生の関心に応じて時代の潮流に沿った柔軟な研究が可能となる体制とする。
3. 修士論文を完成させるため、指導教員の指導のもと、各自の研究を推進させる体制を整えている。中間発表会を設置することで、修士論文の進捗状況をすべての教員が把握できる仕組みとする。
4. 大学院の社会学分野単位相互互換制度により、他大学大学院の開設科目の履修を認める。

【博士後期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、研究者として自己のテーマ領域を打ち立てるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 在学期間内に博士論文を完成することを目指し、指導教員のもと入学後3か年以内に12単位の演習および在学中研究指導を受けさせる。
2. 学位申請論文については、入学後1年を経て論文提出資格を得る試験に合格した者に対して執筆を許可する。
3. 論文執筆前に、自己の研究テーマに関して、日本マス・コミュニケーション学会他、国内外の関連学会において積極的に発表を行うことを推奨し、指導をする。
4. 論文執筆の途中段階において随時、指導教員および当該テーマを専門とする教員による助言と評価を仰ぐことができる体制とする。
5. 論文審査は学外の審査委員（副査）を含む審査委員会によって行われ、公開試験後の審査委員会において合格判定を得られた場合に、学位を授与する。

文化交渉学専攻

【博士前期課程】

本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、多元文化相互の接触や交渉に、幅広い観点から目を向けるよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 異文化をどのように捉えるのかをテーマに、さまざまな文化の特質、文化形成の歴史的経緯などを研究する。
2. 文化交渉の手段の一つであり、新しい文化創造の契機にもなる翻訳について、文学と芸術の関わりを含めて研究する。
3. 諸文化が会合うときに生じる軋轢や、受けとめる様相などを見つめ、新しい文化創造に向かう過程に着目して研究する。
4. 研究、論文作成の基本に習熟するために、「論文作成法」を履修し、修士論文作成にそなえさせる。


【博士後期課程】


本課程では、ディプロマ・ポリシーに沿って、本専攻の特色を生かした博士論文作成に向けて、資料の読解、テーマの深化、論文作成の要諦などを教授するよう、以下の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。

1. 前期課程で積み上げた基礎知識や修士論文の成果をふまえて、さらに高度な研究をさせる。
2. 開講科目の履修と個別指導を通じ、研究者としての自覚をもたせ、文化創造の基盤となる資料の取り扱いに、さらにみがきをかける。

哲学専攻

哲学専攻

 哲学専攻 博士前期課程

 哲学専攻 博士後期課程

哲学専攻 博士前期課程

哲学専攻 博士前期課程

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

【哲学専修コース（Aコース）】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶必修科目	4		
↳哲学総合演習A	2		
↳哲学総合演習B	2		
▶選択必修科目	10		文献研究科目群のなかから10単位を選ぶ
▶選択科目	16		
↳自専攻科目			
↳自研究科他専攻科目			19年次生以降は4単位まで修了に必要な単位として認められる。
↳委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる
研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および口述試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【現代思想コース（Bコース）】

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶必修科目	4		
↳哲学総合演習A	2		
↳哲学総合演習B	2		
▶選択必修科目	10		文献研究科目群のなかから4単位 研究科目群のなかから6単位を選ぶ
▶選択科目	16		
↳自専攻科目			
↳自研究科他専攻科目			19年次生以降は4単位まで修了に必要な単位として認められる。
↳委託聴講科目			8単位まで修了に必要な単位として認められる

研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および口述試験に合格すること (修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること)

【研究指導スケジュール】

指導教員の決定：4月末まで（M1・M2）新入生・在校生ガイダンス後なるべく早期が望ましい。

年次研究計画書の提出：4月末まで（M1・M2）毎年度提出

研究報告書の提出：2月末まで（M1）

修士論文計画書の提出：11月中旬（M1）指導教員別にガイダンスを実施する。

修士論文中間発表会：10月下旬～12月上旬（M2）「哲学総合演習」で順次発表する。

修士論文の履修登録：9月下旬～10月上旬（M2）秋学期履修登録期間中

修士論文の提出：1月中旬（M2）

論文審査・口述試験：2月中旬（M2）

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 問題設定：哲学の体系的・歴史的研究のいずれかの点で、妥当な問題を設定していること。
2. 研究方法：文献研究の場合、原典の参照や二次文献の検討が適切になされていること。
3. 論文構成：論文全体の構成、論旨の展開が明確で、説得力がある文章で書かれていること。
4. 研究の位置づけ：研究史に鑑み、自分の研究がどういった位置にあるか明確であること。
5. 独創性：哲学研究への何らかの積極的な貢献を果たす意義を持っていること。
6. 論文の形式：論文としての十分な紙幅、註や参考文献の適切な指示がなされていること。
7. 研究の倫理：資料の改竄、剽窃、盗作などが一切ないこと。
8. 指導：指導教員との十分な個人指導を経た成果であること。

2. 授業科目の編成・単位

哲学専修コース（Aコース）・現代思想コース（Bコース）

<文献研究科目群>

科目名	単位数				
	必修科目	選必(Aコース)	選択(Aコース)	選必(Bコース)	選択(Bコース)
古代哲学文献研究I		2		2	
古代哲学文献研究II		2		2	
中世哲学文献研究I		2		2	
中世哲学文献研究II		2		2	
中世哲学文献研究III		2		2	
近代哲学文献研究I		2		2	
近代哲学文献研究II		2		2	
近代哲学文献研究III		2		2	
近代哲学文献研究IV		2		2	
近代哲学文献研究V		2		2	

<研究科目群>

科目名	単位数				
	必修	選必(Aコース)	選択(Aコース)	選必(Bコース)	選択(Bコース)
現代哲学研究I			2	2	
現代哲学研究II			2	2	
現代倫理学研究I			2	2	
現代倫理学研究II			2	2	
美学芸術学研究I			2	2	
美学芸術学研究II			2	2	
日本思想研究			2	2	
東洋思想研究			2	2	
宗教思想研究※①			2		2
(他) 宗教と社会研究※②			2		2
(他) 宗教倫理思想II※③			2		2
哲学総合演習A	2				
哲学総合演習B	2				

- 哲学専修コース（Aコース）の選択必修は
<文献研究科目群>より10単位

- 現代思想コース（Bコース）の選択必修は
＜文献研究科目群＞より4単位
＜研究科目群＞より6単位
- それ以上の単位は選択科目として扱う

※①2022年度まで開講

① ※②実践宗教学研究科死生学専攻開講科目

※③神学研究科神学専攻開講科目

3. 履修上の注意

1. 前期課程において必要な履修単位は30単位とする。
2. 「研究指導(必修)」を、毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」の項を参照すること。
3. 前期課程の学生は入学後一年以内に、修士論文のテーマと希望する指導教員名を専攻主任に申告しなければならない。専攻会議はそれを考慮して指導教員を指定する。
4. 前期課程において学生の研究上必要と認められるときは、協定他大学および本学の他の研究科・専攻の開講科目を履修させ、これを委員会が計8単位まで必要単位として認定する。
5. 哲学総合演習AB（合計4単位）は前期課程1年次生用の必修である。それ以外に2年次以降、継続して履修を希望する場合は、選択科目として扱う。
6. 毎年度初めの新入生・在校生ガイダンスの席で、指導教員の選定、研究計画、修士論文作成などについて詳細な説明を行う。
7. 「分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講 2025年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について
分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能。定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧（ガイド・資料編）を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表〔哲学専攻 博士前期課程〕

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
MPPH1331	春	哲学総合演習A	PHL517-21m00	2	鈴木 伸国	○	
MPPH1332	秋	哲学総合演習B	PHL518-21m00	2	長町 裕司	○	
MPPH7010	春	古代哲学文献研究Ⅰ	PHL505-21j00	2	萩野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究ⅠA
MPPH7020	秋	古代哲学文献研究Ⅱ	PHL506-21j00	2	萩野 弘之		
MPPH7210	休講	中世哲学文献研究Ⅰ	PHL507-21j00	2			(旧) 中世哲学文献研究ⅠA
MPPH7220	春	中世哲学文献研究Ⅱ	PHL508-21j00	2	佐藤 直子		(旧) 中世哲学文献研究ⅠB
MPPH7230	春	中世哲学文献研究Ⅲ	PHL509-21j00	2	長町 裕司		
MPPH7310	春	近代哲学文献研究Ⅰ	PHL510-21j00	2	鈴木 伸国		(旧) 近代哲学文献研究ⅠA
MPPH7320	秋	近代哲学文献研究Ⅱ	PHL511-21j00	2	鈴木 伸国		(旧) 近代哲学文献研究ⅠB
MPPH7330	秋	近代哲学文献研究Ⅲ	PHL512-21j00	2	杉尾 一		(旧) 近代哲学文献研究ⅡA
MPPH7340	秋	近代哲学文献研究Ⅳ	PHL513-21j00	2	長町 裕司		(旧) 近代哲学文献研究Ⅲ
MPPH7350	春	近代哲学文献研究Ⅴ	PHL514-21j00	2	川口 茂雄		(旧) 近代哲学文献研究ⅣB
MPPH7410	春	現代哲学研究Ⅰ	PHL515-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学研究ⅠA
MPPH7420	秋	現代哲学研究Ⅱ	PHL516-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学研究ⅠB
MPPH7510	春	現代倫理学研究Ⅰ	PHL503-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究ⅡA
MPPH7520	秋	現代倫理学研究Ⅱ	PHL504-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究ⅡB
MPPH7530	秋	美学芸術学研究Ⅰ	PHL520-21j00	2	川口 茂雄		隔年開講
MPPH7540	休講	美学芸術学研究Ⅱ	PHL521-21j00	2			隔年開講
MPPH7550	春	日本思想研究	PHL519-21j00	2	(他) 角田 佑一		隔年開講
MPPH7560	休講	東洋思想研究	PHL501-21j00	2			隔年開講
MPPH9340	秋	修士論文	PHL699-21j00	0	哲学専攻各指導教員		
MARL7040	秋	宗教と社会研究	RES513-35j00	2	(他) 寺尾 寿芳		(他) 実践宗教学研究科死生学専攻
MTTH7542	春	キリスト教教育ゼミナールⅢ	THE545-91j00	2	(他) HAIDAR Juan		(他) 神学研究科神学専攻

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
PHL599-21j00	荻野 弘之	
PHL599-21j00	長町 裕司	
PHL599-21j00	佐藤 直子	
PHL599-21j00	寺田 俊郎	
PHL599-21j00	鈴木 伸国	
PHL599-21j00	杉尾 一	
PHL599-21j00	川口 茂雄	

哲学専攻 博士後期課程

哲学専攻 博士後期課程 ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	20		
授業科目			
▶必修科目	4		
↳哲学特殊研究A	2		
↳哲学特殊研究B	2		
▶選択科目	16		
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

【研究指導スケジュール】

指導教員の決定：4月末まで（D1） 新入生・在校生ガイダンス後なるべく早期が望ましい。

年次研究計画書の提出：4月末まで（D1-3） 毎年度提出

研究報告書の提出：2月末まで（D1-2）

博士論文中間発表会：10月下旬～12月上旬（D1-3）「哲学特殊研究」で順次発表する。

博士論文計画書の提出：指導教員、専攻主任と相談する。専攻会議での承認が必要。

博士論文の提出：（随時）提出要領は『履修要綱』参照

博士論文審査・口述試験：（随時）

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 問題設定：哲学の体系的・歴史的研究のいずれかの点で、妥当な問題を設定していること。
2. 研究方法：文献研究の場合、原典の参照や二次文献の検討が適切になされていること。
3. 論文構成：論文全体の構成、論旨の展開が明確で、説得力がある文章で書かれていること。
4. 研究の位置づけ：研究史に鑑み、自分の研究がどういった位置にあるか明確であること。
5. 独創性：従来の研究にない独自の貢献を付け加える意義を持っていること。
6. 論文の形式：論文としての十分な紙幅、註や参考文献の適切な指示がなされていること。
7. 研究の倫理：資料の改竄、剽窃、盗作などが一切ないこと。
8. 指導：指導教員との十分な個人指導を経た成果であること。

9. 学会発表：論文を書くにあたって、それを構成する部分が、複数の専門学会での口頭発表、投稿論文などによる研究成果をふまえていること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
哲学特殊研究・古代I			2
哲学特殊研究・古代II			2
哲学特殊研究・中世I			2
哲学特殊研究・中世II			2
哲学特殊研究・中世III			2
哲学特殊研究・近代I			2
哲学特殊研究・近代II			2
哲学特殊研究・近代III			2
哲学特殊研究・近代IV			2
哲学特殊研究・近代V			2
哲学特殊研究・現代I			2
哲学特殊研究・現代II			2
哲学特殊研究・現代倫理学I			2
哲学特殊研究・現代倫理学II			2
哲学特殊研究・美学芸術学I			2
哲学特殊研究・美学芸術学II			2
哲学特殊研究・日本思想			2
哲学特殊研究・東洋思想			2
哲学特殊研究A	2		
哲学特殊研究B	2		
(他) キリスト教思想研究II※①			2

 ※①神学研究科組織神学専攻開講科目

3. 履修上の注意

1. 後期課程において必要な履修単位数は20単位とする。
2. 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
3. 後期課程の学生は入学当初に、研究テーマと希望する指導教員名を専攻主任に申しなければならない。専攻会議はそれを考慮して指導教員を指定する。
4. 後期課程の学生は毎週指導教員の授業に出席し、その指示に従って研究し、研究状況を指導教員に報告し、その成果を毎年発表しなくてはならない。
5. 後期課程から入学した学生で、前期課程必修科目の「哲学総合演習」を未履修者は、指導教員と専攻主任の許可を受けた上で、この科目4単位を後期課程の選択科目として履修し、必要単位数に充当することができる。
6. 後期課程において学生は研究の必要上、協定他大学および本学の他の研究科・専攻の授業を履修することはできるが、それによって必要単位数に充当することはできない。
7. 哲学特殊研究A・B（合計4単位）は後期課程1年次生用の必修である。それ以外に2年次以降、継続して履修を希望する場合は、この両科目とも選択科目として扱う。
8. 毎年度初めの新入生・在校生ガイダンスの席で、指導教員の選定、研究計画、修士・博士論文作成などについて詳細な説明を行う。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表 [哲学専攻 博士後期課程]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DPPH3021	春	哲学特殊研究A	PHL819-21m00	2	寺田 俊郎	○	
DPPH3022	秋	哲学特殊研究B	PHL820-21m00	2	佐藤 直子	○	
DPPH3111	春	哲学特殊研究・古代Ⅰ	PHL801-21j00	2	荻野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究ⅠA
DPPH3112	秋	哲学特殊研究・古代Ⅱ	PHL802-21j00	2	荻野 弘之		(旧) 古代哲学文献研究Ⅱ
DPPH3221	休講	哲学特殊研究・中世Ⅰ	PHL803-21j00	2			(旧) 中世哲学文献研究ⅠA
DPPH3222	春	哲学特殊研究・中世Ⅱ	PHL804-21j00	2	佐藤 直子		(旧) 中世哲学文献研究ⅠB
DPPH3223	春	哲学特殊研究・中世Ⅲ	PHL805-21j00	2	長町 裕司		(旧) 中世哲学文献研究Ⅲ
DPPH3231	春	哲学特殊研究・近代Ⅰ	PHL806-21j00	2	鈴木 伸国		(旧) 近代哲学文献研究ⅠA
DPPH3232	秋	哲学特殊研究・近代Ⅱ	PHL807-21j00	2	鈴木 伸国		(旧) 近代哲学文献研究ⅠB
DPPH3233	秋	哲学特殊研究・近代Ⅲ	PHL808-21j00	2	杉尾 一		(旧) 近代哲学文献研究ⅡA
DPPH3234	秋	哲学特殊研究・近代Ⅳ	PHL809-21j00	2	長町 裕司		(旧) 近代哲学文献研究Ⅲ
DPPH3235	春	哲学特殊研究・近代Ⅴ	PHL810-21j00	2	川口 茂雄		(旧) 近代哲学文献研究ⅣB
DPPH3241	春	哲学特殊研究・現代Ⅰ	PHL811-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学文献研究ⅡA
DPPH3242	秋	哲学特殊研究・現代Ⅱ	PHL812-21j00	2	長町 裕司		(旧) 現代哲学文献研究ⅡB
DPPH3251	春	哲学特殊研究・現代倫理学Ⅰ	PHL813-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究ⅡA
DPPH3252	秋	哲学特殊研究・現代倫理学Ⅱ	PHL814-21j00	2	寺田 俊郎		(旧) 現代倫理学研究ⅡB
DPPH3253	秋	哲学特殊研究・美学芸術学Ⅰ	PHL815-21j00	2	川口 茂雄		隔年開講 (旧) 美学芸術学研究Ⅰ
DPPH3254	休講	哲学特殊研究・美学芸術学Ⅱ	PHL816-21j00	2			隔年開講 (旧) 美学芸術学研究Ⅱ
DPPH3255	春	哲学特殊研究・日本思想	PHL817-21j00	2	(他) 角田 佑一		隔年開講 (旧) 日本思想研究
DPPH3256	休講	哲学特殊研究・東洋思想	PHL818-21j00	2			隔年開講 (旧) 東洋思想研究
DTTH7380	秋	キリスト教思想研究Ⅱ	THE818-92j00	2	(他) HAIDAR Juan		(他) 神学研究科組織神学専攻


5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
PHL899-21j00	荻野 弘之	
PHL899-21j00	長町 裕司	
PHL899-21j00	佐藤 直子	
PHL899-21j00	寺田 俊郎	
PHL899-21j00	鈴木 伸国	
PHL899-21j00	川口 茂雄	

史学専攻

史学専攻

 史学専攻 博士前期課程

 史学専攻 博士後期課程

史学専攻 博士前期課程

史学専攻 博士前期課程

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1.修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶選択必修科目	4		4単位を超えて修得した場合、その超過分は選択科目の単位数に算入される
▶選択科目	26		
↳自専攻科目			
↳自研究科他専攻科目			
↳委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される 4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること（修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること）

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究計画書の提出	4月末まで	M1以上	
修士論文演習の履修	春学期・秋学期	M1以上	履修登録期間中に各自登録。 M1の春学期は卒論発表、秋学期は修論構想発表、M2以降は修論中間報告を繰り返す
研究報告書の提出	3月末まで	M1以上	
修士論文提出予定書の提出	7月末まで	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の履修登録	9月下旬～10月上旬	M2以上	修士論文を提出する学期の履修登録期間中に、各自で履修登録を行うこと
修士論文題目届の提出	11月末まで	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の提出	1月中旬	M2以上	修士論文提出予定者が対象
修士論文の審査・口述試験	2月上旬	M2以上	修士論文提出者が対象。公開で実施し、下記の基準に基づき審査する

❗ ※各提出物の様式や提出期限の詳細は、毎年4月実施の専攻別院生ガイダンスにて説明する。

❗ ※9月修了希望者は、修士論文提出から口述試験に至るスケジュールを別途指定するため、履修登録前に必ず指導教員もしくは専攻主任に連絡を取ること。

【修士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 問題意識が明確で、テーマ設定が適切であり、歴史研究の知識の向上に寄与していること。
2. 先行研究が十分に検討・吟味されており、出典記載や引用が適切になされていること。
3. 史・資料に基づいた実証研究であること。
4. 論文構成が的確で、論理展開に整合性と一貫性があること。
5. 論文の言語表現が的確であり、目次・註・付録（図表・史料・参考文献表など）に関する体裁が整っていること。

2.授業科目の編成・単位

<日本史学>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
古代演習I			2
古代演習II			2
古代特研			2
中世演習I			2
中世演習II			2
中世特研			2
近世演習I			2
近世演習II			2
近世特研			2
近・現代演習I			2
近・現代演習II			2
近・現代特研			2
史料学研究			4

<東洋史学>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
古代・中世演習I			2
古代・中世演習II			2
古代・中世特研			2
近・現代演習I			2
近・現代演習II			2
近・現代特研			2

<西洋史学>

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
古代演習I			2
古代演習II			2
古代特研			2
中世演習I			2
中世演習II			2
中世特研			2

近世演習I			2
近世演習II			2
近世特研			2
近・現代演習I			2
近・現代演習II			2
近・現代特研			2
(他) 聖書神学研究ゼミナール I (古代イスラエル史) ※注1			2
(他) ヨーロッパ政治文化研究 1 ※注2			2
(他) ヨーロッパ政治文化研究 2 ※注2			2
(他) ヨーロッパ政治社会研究 1 ※注2			2
(他) ヨーロッパ政治社会研究 2 ※注2			2
(他) ヨーロッパ史研究 (フラ ンス語圏) 1 ※注3			2
(他) ヨーロッパ史研究 (フラ ンス語圏) 2 ※注3			2
(他) ヨーロッパ史研究 (イス パニア語圏) 1 ※注3			2
(他) ヨーロッパ史研究 (イス パニア語圏) 2 ※注3			2
(他) 西洋法制史研究I (ヨー ロッパ近世・近代史) ※注4			2
他) 西洋法制史研究II (ヨー ロッパ現代史) ※注4			2
(他) 分野横断研究法：原理と 技法 ※注5			2

< 修士論文演習 >

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
修士論文演習I a		2	
修士論文演習I b		2	
修士論文演習II a		2	
修士論文演習II b		2	

※注1 神学研究科神学専攻開講科目（「神学専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注2 グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻開講科目（2024年度まで開講）

① ※注3 グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻開講科目（「地域研究専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注4 法学研究科法律学専攻開講科目（「法律学専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注5 大学院分野横断型科目（神学専攻開講科目）（詳細は下記「履修上の注意」6を参照）

3. 履修上の注意

1. 「史学専攻履修上の注意」（4月専攻別院生ガイダンスで配付）に従って履修すること。
2. 前期課程生は、専任教員1名を指導教員として定め、所定の科目を履修するとともに、指導教員と密接に連絡し、学位論文や研究報告の作成を行うこと。
3. 「研究計画書」、「研究報告書」、「修士論文提出予定書」、「修士論文題目届」の提出については、【研究指導スケジュール】を参照すること。
4. 前期課程生は、「修士論文演習」4単位を選択必修とする。この科目は、修士論文を作成・提出するまで、引き続き受講することが望ましい（4単位を超える単位は選択科目の単位数に算入される）。
5. 「研究指導」を在学中に毎学期受け、4科目以上合格すること。
6. 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」（神学研究科神学専攻開講 2025年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目）について分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位数に算入される。定員30名の抽選科目となるので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧〔ガイド・資料編〕を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。なお、評価にはP（合格）・X（不合格）を使用する。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表 [史学専攻 博士前期課程]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他):他専攻教員 *:非常勤教員	外国語	備考
MHHT6240	春	修士論文演習Ⅰa	HST501-23j00	2	大川 裕子 中川 亜希 中澤 克昭 山本 成生		
MHHT6240	春	修士論文演習Ⅱa	HST501-23j00	2	森田 直子 中村 江里 坂野 正則 川村 信三		
MHHT7060	休講	<日本史学>近世特研	HST512-23m00	2			
MHHT7080	春	<日本史学>近・現代特研	HST513-23m00	2	中村 江里		
MHHT7120	春	<東洋史学>古代・中世特研	HST540-23m00	2	大川 裕子		
MHHT7210	春	<西洋史学>近世特研	HST518-23m00	2	坂野 正則		
MHHT7240	休講	<日本史学>古代演習Ⅰ	HST520-23j00	2			
MHHT7260	春	<日本史学>中世演習Ⅰ	HST521-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7280	春	<日本史学>近世演習Ⅰ	HST522-23m00	2	川村 信三		
MHHT7300	春	<日本史学>近・現代演習Ⅰ	HST523-23m00	2	中村 江里		
MHHT7320	春	<東洋史学>古代・中世演習Ⅰ	HST541-23j00	2	大川 裕子		
MHHT7360	春	<東洋史学>近・現代演習Ⅰ	HST525-23m00	2	笹川 裕史		
MHHT7380	春	<西洋史学>古代演習Ⅰ	HST526-23m00	2	中川 亜希		
MHHT7400	春	<西洋史学>中世演習Ⅰ	HST527-23m00	2	山本 成生		
MHHT7420	春	<西洋史学>近世演習Ⅰ	HST528-23m00	2	坂野 正則		
MHHT7440	春	<西洋史学>近・現代演習Ⅰ	HST529-23m00	2	森田 直子		
MFAS8020	春	(他)ヨーロッパ史研究(フランス語圏)Ⅰ	AEU503-67j00	2	(他)高橋 暁生		(他)グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注2
MFAS8022	春	(他)ヨーロッパ史研究(イスパニア語圏)Ⅰ	AEU501-67j00	2	(他)内村 俊太		(他)グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注2
MLLW7030	休講	(他)西洋法制史研究Ⅰ(ヨーロッパ近世・近代史)	JUR503-41m00	2			(他)法学研究科法律学専攻隔年開講 ※注3
MLLW7040	春	(他)西洋法制史研究Ⅱ(ヨーロッパ現代史)	JUR504-41m00	2	(他)松本 尚子		(他)法学研究科法律学専攻隔年開講 ※注3
MHHT7090	集中	史料学研究	HST599-23j00	4	中澤 克昭		春学期4月に申込み、夏休みに研修。履修登録と成績評価は秋学期。
MHHT6250	秋	修士論文演習Ⅰb	HST601-23j00	2	中澤 克昭 大川 裕子 中川 亜希 山本 成生		
MHHT6270	秋	修士論文演習Ⅱb	HST602-23j00	2	坂野 正則 川村 信三 中村 江里 森田 直子		
MHHT7020	休講	<日本史学>古代特研	HST510-23j00	2			
MHHT7040	秋	<日本史学>中世特研	HST511-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7230	秋	<西洋史学>近・現代特研	HST519-23m00	2	森田 直子		
MHHT7150	休講	<東洋史学>近・現代特研	HST515-23m00	2			
MHHT7170	休講	<西洋史学>古代特研	HST516-23m00	2			
MHHT7190	秋	<西洋史学>中世特研	HST517-23m00	2	山本 成生		
MHHT7250	休講	<日本史学>古代演習Ⅱ	HST530-23j00	2			
MHHT7270	秋	<日本史学>中世演習Ⅱ	HST531-23j00	2	中澤 克昭		
MHHT7290	秋	<日本史学>近世演習Ⅱ	HST532-23m00	2	川村 信三		

MHHT7310	秋	<日本史学>近・現代演習Ⅱ	HST533-23m00	2	中村 江里	
MHHT7330	秋	<東洋史学>古代・中世演習Ⅱ	HST551-23j00	2	大川 裕子	
MHHT7370	秋	<東洋史学>近・現代演習Ⅱ	HST535-23m00	2	笹川 裕史	
MHHT7390	秋	<西洋史学>古代演習Ⅱ	HST536-23m00	2	中川 亜希	
MHHT7410	秋	<西洋史学>中世演習Ⅱ	HST537-23m00	2	山本 成生	
MHHT7430	秋	<西洋史学>近世演習Ⅱ	HST538-23m00	2	坂野 正則	
MHHT7450	秋	<西洋史学>近・現代演習Ⅱ	HST539-23m00	2	森田 直子	
MHHT9280	秋	修士論文	HST699-23m00	0	史学専攻各指導教員	M2 対象
MTTH7702	休講	(他) 聖書神学研究ゼミナールⅠ (古代イスラエル史)	THE552-91j00	2		(他) 神学研究科神学専攻隔年開講 ※注1
MFAS8021	秋	(他) ヨーロッパ史研究 (フランス語圏) 2	AEU504-67j00	2	(他) 高橋 暁生	(他) グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注2
MFAS8023	秋	(他) ヨーロッパ史研究 (イスパニア語圏) 2	AEU502-67j00	2	(他) 内村 俊太	(他) グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 ※注2
MHPS7900	秋	分野横断研究法：原理と技法	PSY555-82j00	2	コーディネータ (他) HAIDAR Juan (他) 池田 真	輪講 [30名] 博士前期課程または修士課程1年次生対象 (他) 神学研究科神学専攻開講 ※注4

※注1 神学研究科神学専攻開講科目（「神学専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注2 グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻開講科目（「地域研究専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注3 法学研究科法学専攻開講科目（「法学専攻 博士前期課程」の項を参照）

※注4 神学研究科神学専攻開講科目（「神学専攻 博士前期課程」の項を参照）

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HST599-23j00	中澤 克昭	
HST599-23j00	川村 信三	
HST599-23j00	中村 江里	
HST599-23j00	大川 裕子	
HST599-23j00	笹川 裕史	
HST599-23j00	中川 亜希	
HST599-23j00	山本 成生	
HST599-23j00	坂野 正則	
HST599-23j00	森田 直子	

史学専攻 博士後期課程

史学専攻 博士後期課程

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	12		
授業科目			
▶必修科目	12		
┆博士論文演習Ⅰ・Ⅱ	12		6学期（6回）で合計12単位分履修すること
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

【研究指導スケジュール】

事項	期日	対象	備考
研究計画書の提出	4月末まで	D1以上	
博士論文演習の履修	春学期・秋学期	D1以上	履修登録期間中に各自登録。博論中間報告を繰り返す。
博士論文提出資格の審査申請 （履歴書・業績目録・学位論文要旨もしくは研究計画書・論文抜刷各1部の提出）	3月修了者：年度初めの4月1日～4月末日	D3以上	博士論文提出予定者が対象。専攻主任に申し出ること。資格審査は、史学専攻会議にて行う。9月修了者の場合は、前年度の10月1日～10月末日までに申請のこと。
博士論文の提出	3月修了者：修了を希望する年度の7月末まで	D3以上	博士論文提出予定者が対象。9月修了者の場合は、修了を希望する年の1月末日まで。
博士論文の審査・口述試験	適宜定める	D3以上	博士論文提出者が対象。文学研究科委員会の定める論文審査委員会により公開で実施し、下記の基準に基づき審査する。あわせて、口述試験と外国語の試験を行う。

- ① ※博士論文提出に至る過程については、「博士の学位授与に関する史学専攻内規」に基づく。詳細は、毎年4月実施の専攻別院生ガイダンスにて説明する。
※論文博士、論文再入学については、別途スケジュールを定めるので、指導教員もしくは専攻主任に問い合わせること。

【博士論文審査基準】

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等を把握するために、提出された論文を次の水準及び審査項目について審査する。

1. 問題意識が明確で、テーマ設定が適切であり、対象分野に関する新しい史実の発見、ないしは既知の史実に対する新しい解釈の提示をしていること。
2. 先行研究が網羅的に検討・吟味されており、出典記載や引用が適切になされていること。
3. 史・資料に基づいた実証研究であること。
4. 論文構成が的確で、論理展開に整合性と一貫性があること。
5. 論文の言語表現が的確であり、目次・注・付録（図表・史料・参考文献表など）に関する体裁が整っていること。

6. 当該分野における独創的かつ先端的な研究であり、執筆者が自立的研究者として研究を遂行する能力があることを証明する研究であること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		
	必修	選必	選択
博士論文演習I	2		
博士論文演習II	2		

3. 履修上の注意

1. 「史学専攻履修上の注意」（4月専攻別院生ガイダンスで配付）に従って履修すること。
2. 後期課程生は、専任教員1名を指導教員として定め、所定の科目を履修するとともに、指導教員と密接に連絡し、学位論文や研究報告の作成を行うこと。
3. 「研究計画書」、「研究報告書」の提出については、【研究指導スケジュール】を参照すること。
4. 指導教員の開講する「博士論文演習Ⅰ」「同Ⅱ」を合計で12単位修得すること（ただし、大学の交換留学制度で指定された外国の大学にて勉学する場合は、その限りではない）。
5. 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数（6科目以上）も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
6. 後期課程生は、指導教員の開講する博士前期課程の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を履修することが望ましい。なお、これは後期課程の修了要件とはならない。
7. 博士論文の提出者は、審査願提出時に、2本以上の研究論文が学術誌に掲載もしくは掲載決定していること。博士論文の提出に関しては、「博士の学位授与に関する史学専攻内規」に従って、所定の手続きをとること。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表 [史学専攻 博士後期課程]


登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DHHT3041	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	中川 亜希		
DHHT3081	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	川村 信三	○	英語による授業
DHHT3101	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	笹川 裕史		
DHHT3201	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	(他) 北條 勝貴		
DHHT3231	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	中澤 克昭		
DHHT3291	春	博士論文演習 I	HST801-23m00	2	坂野 正則		
DHHT3042	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	中川 亜希		
DHHT3082	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	川村 信三	○	英語による授業
DHHT3102	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	笹川 裕史		
DHHT3202	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	(他) 北條 勝貴		
DHHT3232	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	中澤 克昭		
DHHT3292	秋	博士論文演習 II	HST802-23m00	2	坂野 正則		


5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HST899-23j00	中澤 克昭	
HST899-23j00	川村 信三	
HST899-23j00	笹川 裕史	
HST899-23j00	中川 亜希	
HST899-23j00	坂野 正則	

国文学専攻

国文学専攻 ▶

 国文学専攻 博士前期課程

 国文学専攻 博士後期課程

国文学専攻 博士前期課程

国文学専攻 博士前期課程 ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1.修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

要件項目名	必要単位数	必要科目数	備考（上限、その他）
総単位数	30		
授業科目			
▶選択科目	30		
↳自専攻科目			
↳自研究科他専攻科目			
↳委託聴講科目			10単位まで修了に必要な単位として認められる※ただし、国連大学委託聴講科目は認められない
研究指導（必修）		4	単位なし、在学中毎学期登録される4科目以上合格すること
修士論文			必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格すること（修士論文を提出する学期の履修登録期間に必ず修士論文登録をすること）

【研究指導スケジュール】

4月に実施する専攻ガイダンスで配布の「国文学専攻履修上の注意」「国文学専攻院生の指導について」ほか、配布書類にて確認すること。

国文学専攻の院生に対する指導体制の強化と、修士論文・博士論文の取組の質的向上を目指し、専攻教員の申し合せとして、次の方法を導入する。

指導教員の指導・助言体制の強化の一助として、弾力化・多角化を図るために指導教員の複数制を導入する。

1. 院生1人に対して、大学所定の指導教員に加え、専攻としてさらに副指導教員を置く。
2. 副指導教員は指導教員と協議しながら、必要な助言を行う。

【年間スケジュール】

❗（注）発表会の実施時期については年度ごとに相談の上、調整する。

事項	日程	対象	備考
研究計画書の提出	4月第3水曜日締切	国文学専攻院生全員	指導教員・副指導教員の承認を受けたのち、専攻主任に提出
研究計画発表会	5月第4水曜日	博士前期課程在学学生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること なお、院生全員参加のこと
研究計画発表会	10月第4水曜日	博士前期課程新入生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること なお、院生全員参加のこと
修士論文構想発表会	11月第4水曜日	修士論文提出予定者	「修士論文提出予定者へ」参照 院生全員参加のこと
修士論文の提出	1月中旬		
修士論文審査・口述試験	2月中旬		

修士論文成果発表会	2月第4水曜日	修士論文提出者	院生全員参加のこと
研究報告書の提出	2月1日から2月末日	国文学専攻院生全員	国文学科事務室に提出

📄 本年度修士論文提出予定者へ

1. 「修士論文提出予定書」の提出
提出期間6月1日～6月末日
所定の用紙に記入の上、指導教員・副指導教員に承認を得たのち、専攻主任に提出すること。
2. 「修士論文構想発表会」について
「修士論文構想発表会」で発表し、公開の形で指導教員・副指導教員の指導・助言を受ける。
3. 「修士論文題目届」の提出
提出期間11月15日～11月末日

 所定の用紙に記入の上、指導教員、副指導教員の署名・捺印を得たのち、国文学専攻主任に提出すること。

【修士論文審査基準】

提出された論文は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度を把握するために、以下の基準で審査する。

1. 明確な問題意識に基づき、統一されたテーマを有し、統一された形式で書き下ろされたもの。刊行された書物、抜刷の集合は認めない。
2. 先行研究を的確に踏まえた上で、出典記載・引用が適切になされていること。
3. 独創的知見を有する研究であること。
4. 論理展開に整合性を有し、言語表現が適切であること。
5. 全国レベルの学会で発表された研究論文、または発表しうる水準の論文の内容を含んでいること。
6. 四百字詰め原稿用紙200枚以上に相当する分量を有すること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
古典文学特殊講義・演習ⅠA			2
古典文学特殊講義・演習ⅠB			2
古典文学特殊講義・演習ⅡA			2
古典文学特殊講義・演習ⅡB			2
古典文学特殊講義・演習ⅢA			2
古典文学特殊講義・演習ⅢB			2
古典文学特殊講義・演習ⅣA			2
古典文学特殊講義・演習ⅣB			2
近代文学特殊講義・演習ⅠA			2
近代文学特殊講義・演習ⅠB			2
近代文学特殊講義・演習ⅡA			2
近代文学特殊講義・演習ⅡB			2
近代文学特殊講義・演習ⅢA			2
近代文学特殊講義・演習ⅢB			2
国語学特殊講義・演習ⅠA			2
国語学特殊講義・演習ⅠB			2
国語学特殊講義・演習ⅡA			2
国語学特殊講義・演習ⅡB			2
漢文学特殊講義・演習ⅠA			2
漢文学特殊講義・演習ⅠB			2
漢文学特殊講義・演習ⅡA			2
漢文学特殊講義・演習ⅡB			2
(他) COMPARATIVE LITERATURE 1			2
(他) COMPARATIVE LITERATURE			2
(他) 分野横断研究法：原理と技法※			2

❗ ※2022年度のみ借入

3. 履修上の注意

1. 国文学専攻に所属する学生は、「大学院国文学専攻履修上の注意」に従って履修すること。
2. 「大学院国文学専攻院生の指導について」に従って、各自専任教員1名を指導教員、1名を副指導教員として定め、その指導のもとに所定の科目を履修し、かつ論文を作成すること。
3. 毎年度4月に専攻の定める「研究計画書」を、2月に「研究報告書」を提出すること。
4. 博士後期課程科目「特殊研究」を履修登録して受講することができるが、修了要件の単位としては認定されない。
5. 修士論文提出予定者は専攻の定める「提出予定書」及び「題目届」を提出すること。
6. 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、「研究指導」については、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
7. 「(他) 分野横断研究法：原理と技法」(神学研究科神学専攻開講 2025年度秋学期 金曜日5時限 2単位科目) について分野横断型の科目として、2022年度から新たに開設された。2022年度に本科目により修得した単位は、自専攻科目として修了に必要な単位に算入される。
2023年度~2025年度は、本専攻では修了に必要な単位として算入することはできないが、履修することは可能。定員30名の抽選科目なので、抽選エントリーの期間や方法、抽選後の先着順での登録方法等について、2025年度履修要覧〔ガイド・資料編〕を参照のこと。履修登録を行わずに授業に出席することはできない。なお、評価にはP (合格)・X (不合格)を使用する。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表 [国文学専攻 博士前期課程]

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
MHJL7010	春	古典文学特殊講義・演習ⅠA	JLT501-24j00	2	瀬間 正之		後期課程「古典文学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7030	春	古典文学特殊講義・演習ⅡA	JLT503-24j00	2	本廣 陽子		
MHJL7050	春	古典文学特殊講義・演習ⅢA	JLT505-24j00	2	山本 章博		
MHJL7070	休講	古典文学特殊講義・演習ⅣA	JLT507-24j00	2			
MHJL7090	春	近代文学特殊講義・演習ⅠA	JLT509-24j00	2	福井 拓也		後期課程「近代文学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7110	春	近代文学特殊講義・演習ⅡA	JLT511-24j00	2	木村 洋		
MHJL7230	春	近代文学特殊講義・演習ⅢA	JLT513-24j00	2	*加藤 夢三		後期課程「近代文学特殊研究ⅢA」と合併
MHJL7130	春	国語学特殊講義・演習ⅠA	JAL501-24j00	2	服部 隆		後期課程「国語学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7150	春	国語学特殊講義・演習ⅡA	JAL503-24j00	2	*陳 力衛		後期課程「国語学特殊研究ⅡA」と合併
MHJL7190	春	漢文学特殊講義・演習ⅠA	CLT501-24j00	2	*紺野 達也		後期課程「漢文学特殊研究ⅠA」と合併
MHJL7210	春	漢文学特殊講義・演習ⅡA	CLT503-24j00	2	福井 辰彦		
MZJS5180	秋	COMPARATIVE LITERATURE1	JST608-65e00	2	(他)河野 至恩	○	(他)グローバル社会専攻
MZJS5190	秋	COMPARATIVE LITERATURE2	JST609-65e00	2	(他)河野 至恩	○	(他)グローバル社会専攻
MHJL7020	秋	古典文学特殊講義・演習ⅠB	JLT502-24j00	2	瀬間 正之		後期課程「国語学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7040	秋	古典文学特殊講義・演習ⅡB	JLT504-24j00	2	本廣 陽子		
MHJL7060	秋	古典文学特殊講義・演習ⅢB	JLT506-24j00	2	山本 章博		
MHJL7080	休講	古典文学特殊講義・演習ⅣB	JLT508-24j00	2			
MHJL7100	秋	近代文学特殊講義・演習ⅠB	JLT510-24j00	2	福井 拓也		後期課程「近代文学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7120	秋	近代文学特殊講義・演習ⅡB	JLT512-24j00	2	木村 洋		
MHJL7240	秋	近代文学特殊講義・演習ⅢB	JLT514-24j00	2	*加藤 夢三		後期課程「近代文学特殊研究ⅢB」と合併
MHJL7140	秋	国語学特殊講義・演習ⅠB	JAL502-24j00	2	服部 隆		後期課程「国語学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7160	秋	国語学特殊講義・演習ⅡB	JAL504-24j00	2	*陳 力衛		後期課程「国語学特殊研究ⅡB」と合併
MHJL7200	秋	漢文学特殊講義・演習ⅠB	CLT502-24j00	2	*紺野 達也		後期課程「漢文学特殊研究ⅠB」と合併
MHJL7220	秋	漢文学特殊講義・演習ⅡB	CLT504-24j00	2	福井 辰彦		
MHJL9240	秋	修士論文	HUM699-24j00	0	国文学専攻各指導教員		M2対象

5. 研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HUM599-24j00	瀬間 正之	
HUM599-24j00	服部 隆	
HUM599-24j00	福井 辰彦	
HUM599-24j00	本廣 陽子	
HUM599-24j00	山本 章博	
HUM599-24j00	木村 洋	

国文学専攻 博士後期課程

国文学専攻 博士後期課程 ▶

- 📄 1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件
- 📄 2. 授業科目の編成・単位
- 📄 3. 履修上の注意
- 📄 4. 開講科目一覧表
- 📄 5. 研究指導一覧表

1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件

【18年次生以降】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数	12		
授業科目			
▶選択科目	12		
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

【17年次生】

要件項目名	必要 単位数	必要 科目数	備考（上限、その他）
総単位数			
授業科目			
▶選択科目			
研究指導（必修）		6	単位なし、在学中毎学期登録される 6科目以上合格すること
博士論文			必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格すること

【研究指導スケジュール】

4月に実施する専攻ガイダンスで配布の「国文学専攻履修上の注意」「国文学専攻院生の指導について」ほか、配布書類にて確認すること。

国文学専攻の院生に対する指導体制の強化と、修士論文・博士論文の取組の質的向上を目指し、専攻教員の申し合せとして、次の方法を導入する。

指導教員の指導・助言体制の強化の一助として、弾力化・多角化を図るために指導教員の複数制を導入する。

1. 院生1人に対して、大学所定の指導教員に加え、専攻としてさらに副指導教員を置く。
2. 副指導教員は指導教員と協議しながら、必要な助言を行う。

【年間スケジュール】

❗（注）発表会の実施時期については年度ごとに相談の上、調整する。

事項	日程	対象	備考
研究計画書の提出	4月第3水曜日締切	国文学専攻院生全員	指導教員・副指導教員の承認を受けたのち、専攻主任に提出

研究計画発表会	4月第4水曜日	博士後期課程在学学生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること なお、院生全員参加のこと
研究計画発表会	6月第4水曜日	博士後期課程新入生	発表会に出席し、発表するとともに、質疑応答に積極的に加わり、教員の指導を受けること なお、院生全員参加のこと
修士論文構想発表会	11月第4水曜日	修士論文提出予定者	院生全員参加のこと
修士論文成果発表会	2月第4水曜日	修士論文提出者	院生全員参加のこと
研究報告書の提出	2月1日から2月末日	国文学専攻院生全員	国文学科事務室に提出

- ・ 研究計画・研究構想を作成し、指導教員・副指導教員の指導を受け、研究計画発表会で発表するとともに、論文を学術誌に発表するように努める。
- ・ 本年度博士論文提出予定者：別途、「国文学専攻博士学位授与に関する内規」（2002年12月4日制定）により、指導教員・副指導教員の指導のもとに論文を作成する。

【博士論文審査基準】

提出された論文は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の達成度を把握するために、以下の基準で審査する。

1. 明確な問題意識に基づき、統一されたテーマを有し、統一された形式で書き下ろされたもの。刊行された書物、抜刷の集合は認めない。
2. 先行研究を的確に踏まえた上で、出典記載・引用が適切になされていること。
3. 独創的知見を有する研究であること。
4. 論理展開に整合性を有し、言語表現が適切であること。
5. 全国レベルの学会で発表された研究論文を、2本以上含んでいること。
6. 四角字詰め原稿用紙300枚以上に相当する分量を有すること。

2. 授業科目の編成・単位

科目名	単位数		選択
	必修	選必	
古典文学特殊研究I A			2
古典文学特殊研究I B			2
古典文学特殊研究II A			2
古典文学特殊研究II B			2
古典文学特殊研究III A			2
古典文学特殊研究III B			2
古典文学特殊研究IV A			2
古典文学特殊研究IV B			2
近代文学特殊研究I A			2
近代文学特殊研究I B			2
近代文学特殊研究II A			2
近代文学特殊研究II B			2
近代文学特殊研究III A			2
近代文学特殊研究III B			2
国語学特殊研究I A			2
国語学特殊研究I B			2
国語学特殊研究II A			2
国語学特殊研究II B			2
漢文学特殊研究I A			2
漢文学特殊研究I B			2
漢文学特殊研究II A			2
漢文学特殊研究II B			2

3. 履修上の注意

1. 国文学専攻に所属する学生は、「大学院国文学専攻履修上の注意」に従って年間4単位ずつを目安に履修すること。
2. 「大学院国文学専攻院生の指導について」に従って、各自専任教員1名を指導教員、1名を副指導教員として定め、その指導のもとに所定の科目を履修し、かつ論文を作成すること。
3. 毎年度4月に専攻の定める「研究計画書」を、2月に「研究報告書」を提出すること。
4. 指導教員及び副指導教員の科目を、毎年必ず受講することが望ましい。
5. 博士前期課程科目を履修登録して受講することができるが、修了要件の単位としては認定されない。
6. 「研究指導」を在学中毎学期受けること。なお、必要な合格科目数も定められている。「1. 修了に要する科目、単位数、科目数などの要件」を参照すること。
7. 博士論文審査願提出以前に2本以上の研究論文を学術誌に発表すること。
8. 博士論文を作成し、提出したい者は、「国文学専攻博士学位授与に関する内規」に従って、所定の手続きをとること。

4. 開講科目一覧表

開講科目一覧表〔国文学専攻 博士後期課程〕

登録コード	開講期	科目名	ナンバリング	単位数	担当教員名 ※(他)：他専攻教員 *：非常勤教員	外国語	備考
DHJL7010	春	古典文学特殊研究ⅠA	JLT801-24j00	2	瀬間 正之		前期課程「古典文学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7030	春	古典文学特殊研究ⅡA	JLT803-24j00	2	本廣 陽子		
DHJL7220	春	古典文学特殊研究ⅢA	JLT809-24j00	2	山本 章博		
DHJL7060	休講	古典文学特殊研究ⅣA	JLT805-24j00	2			
DHJL7240	春	近代文学特殊研究ⅠA	JLT811-24j00	2	福井 拓也		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7090	春	近代文学特殊研究ⅡA	JLT807-24j00	2	木村 洋		
DHJL7280	春	近代文学特殊研究ⅢA	JLT813-24j00	2	*加藤 夢三		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅢA」と合併
DHJL7210	春	国語学特殊研究ⅠA	JAL805-24j00	2	服部 隆		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7120	春	国語学特殊研究ⅡA	JAL801-24j00	2	*陳 力衛		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅡA」と合併
DHJL7260	春	漢文学特殊研究ⅠA	CLT803-24j00	2	*紺野 達也		前期課程「漢文学特殊講義・演習ⅠA」と合併
DHJL7170	春	漢文学特殊研究ⅡA	CLT801-24j00	2	福井 辰彦		
DHJL7020	秋	古典文学特殊研究ⅠB	JLT802-24j00	2	瀬間 正之		前期課程「古典文学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7040	秋	古典文学特殊研究ⅡB	JLT804-24j00	2	本廣 陽子		
DHJL7230	秋	古典文学特殊研究ⅢB	JLT810-24j00	2	山本 章博		
DHJL7070	休講	古典文学特殊研究ⅣB	JLT806-24j00	2			
DHJL7250	秋	近代文学特殊研究ⅠB	JLT812-24j00	2	福井 拓也		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7100	秋	近代文学特殊研究ⅡB	JLT808-24j00	2	木村 洋		
DHJL7290	秋	近代文学特殊研究ⅢB	JLT814-24j00	2	*加藤 夢三		前期課程「近代文学特殊講義・演習ⅢB」と合併
DHJL7200	秋	国語学特殊研究ⅠB	JAL806-24j00	2	服部 隆		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7130	秋	国語学特殊研究ⅡB	JAL802-24j00	2	*陳 力衛		前期課程「国語学特殊講義・演習ⅡB」と合併
DHJL7270	秋	漢文学特殊研究ⅠB	CLT804-24j00	2	*紺野 達也		前期課程「漢文学特殊講義・演習ⅠB」と合併
DHJL7180	秋	漢文学特殊研究ⅡB	CLT802-24j00	2	福井 辰彦		

5.研究指導一覧表

ナンバリング	担当教員名	備考
HUM899-24j00	瀬間 正之	
HUM899-24j00	服部 隆	
HUM899-24j00	福井 辰彦	
HUM899-24j00	本廣 陽子	
HUM899-24j00	山本 章博	
HUM899-24j00	木村 洋	